

エチオピア連邦民主共和国

【国名】

- 国名のエチオピアは、ギリシャ語の「日に焼けた」という意味のアエオティプスに由来しています。

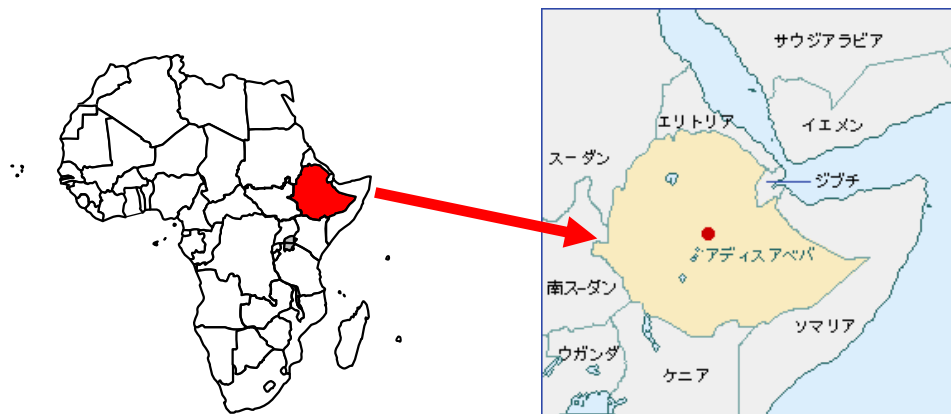
【国旗】

- 国旗は、緑が大地、黄が平和、赤が国土のために流された血を表しています。中心に描かれた光線を発する金色の五芒星は、旧エチオピア皇族の祖ソロモン王の紋章が起源です。



【国土】

- 面積は、約 109.7 万km²（日本の約3倍）、人口は約1億 1,207 万人で、ナイジェリアに次いでアフリカ第2位です。



【3,000 年の歴史】

- エチオピアの伝承上の起源は、紀元前 10 世紀頃、旧約聖書「列王紀」に出てくるソロモン王とシバの女王の間に生まれたメネリク 1 世の建国によると言われています。
- 史実では、北部ティグライ州から隣国エリトリアにあたる範囲を中心に 4 世紀頃に最も栄えたアクスム王国が起源とされています。同王国時代に、現在まで国民の半数以上が信者であるエチオピア正教が国教として定められました。

【独立を堅持した国】

- 19 世紀末、エチオピアは 2 度にわたるイタリアの侵略を退けました。当時、アフリカ大陸が西欧の列強に植民地支配されていた時代において、画期的な出来事でした。そのため、エチオピアは独立を守り切ったアフリカの国として一目を置かれています。

【最後の皇帝ハイレセラシエ 1 世】

- エチオピア最後の皇帝ハイレセラシエ 1 世は、1930 年に即位しました。同皇帝の即位は、英国植民地であったジャマイカにおいて、黒人による抵抗運動の救世主、神の化身と見なされ、即位以前の名ラス・タファリ・マコンネンからラスタファリ運動が生まれました。同運動は、レゲエ歌手のボブ・マーリーにより有名となりました。
- 同皇帝は、1956 年及び 1970 年の大阪万博の機会に訪日、当時は皇太子同妃両殿下であった上皇上皇后両陛下も 1960 年にエチオピアを御訪問される等、皇室同士の親交がありました。
- 1974 年にクーデターにより退位させられ、翌年死去しました。



1960 年当時の皇太子同妃両殿下がエチオピアを御訪問された際、ハイレセラシエ 1 世と一緒に映っている写真。

【独自の文化】

- エチオピア正教はイスラム諸国に囲まれ、長い間キリスト教世界から隔絶されたため、教義上の違いが際立っています。信者は、動物性蛋白質を摂取しない独特の断食習慣を有しています。また、アクスム王国が、迫害を逃れてきた預言者ムハンマドの家族を匿ったと伝えられており、現在もエチオピア正教徒とイスラム教徒は調和して暮らしています。
- また、エチオピアは「コプト暦」という独自の暦を有しています。コプト暦の新年は、グレゴリオ暦（西暦）の9月11日にあたります（西暦1900年～2099年の間）。
- 時間の概念も日の出を0時としているため、例えば正午は午前6時となります。
- また、サブ・サハラ・アフリカで唯一固有の文字であるアムハラ文字を有しています。例えば、「エチオピア」は、アムハラ文字では「ኢትዮጵያ」と表記されます。

【観光】

- エチオピアは、阿克苏ム王国のオベリスク群やラリベラの岩窟教会群、フランスの詩人ランボーが滞在したとされ、イスラムの第4の聖地と言われた城塞都市ハラール等、モロッコと並ぶアフリカ最多の9つの世界遺産があります。
- 他にも映画インディージョーンズの「失われたアーク」で有名なモーゼの十戒を納めたアーク（契約の箱）が納められているとされる教会、ナイル川（青ナイル）の水源タナ湖などの見所があります。



阿克苏ムのオベリスク



ラリベラの岩窟教会

【コーヒー発祥の地】

- 「コーヒー」という言葉は、エチオピア西南部の「カファ」という地名に由来し、かつてはイエメンのモカ港に集積されたことから、モカ・コーヒーとして知られるようになりました。
- エチオピアでは、コーヒー・セレモニーという儀式が盛んに行われています。日常的に各家庭で行われている他、式典などの際にもコーヒー・セレモニーは欠かせません。コーヒーを客人の前で煎り、お香を炊き、煎ったコーヒーをつぶし、時間をかけてコーヒーを煮出し、3回に分けて客人に飲んでもらう等、きちんとした順序・決まりがあり、1杯のコーヒーを数十分から数時間かけて楽しみます。



【「人類発祥の地」】

- エチオピアは人類化石の宝庫です。1974年、アフール地方で発見された、318万年前のアウストラロピテクスの化石は、「ルーシー」と名付けられ、アディスアベバの国立博物館に保存されています。
- 2009年には、440万年前の化石「アルディピテクス・ラミダス」（通称：ラミダス猿人、アルディ）が、諏訪元・東京大学教授グループによって発見されており、「人類発祥の地」とも呼ばれる所以となっています。



ルーシー

【「長距離王国」】

- エチオピアは国土のほぼ半分が海拔 2,000m 以上の高原で陸上競技が盛んで、多くのアスリートが世界の陸上競技で活躍しています。
- オリンピックでは、「裸足のアベベ」として有名なアベベ・ビキラは、ローマ五輪（1960 年）、東京五輪（1964 年）の馬拉ソンで史上初の 2 大会連続金メダルを獲得しました。続くメキシコ大会ではマモ・ウエルデの勝利により、エチオピアは五輪馬拉ソン 3 連覇を成し遂げました。
- リオ五輪（2016 年）では、陸上女子 1 万メートルでアルマズ・アヤナが優勝し、エチオピアにとって 22 個目の金メダルを獲得しました（いずれも陸上競技）。

【エチオピアの食文化】

- エチオピアでは「テフ」と呼ばれる、イネ科の穀物が広く栽培されています。テフの粉を発酵させて薄く焼いた「インジェラ」は、エチオピアの代表的な食品です。鶏肉や羊肉を香辛料とともに煮込んだ「ワット」と呼ばれるシチューをインジェラで包んで食べます。
- インジェラは鉄分、ビタミンB、カルシウム等が多量に含まれ、栄養価が高い食品です。なお、農民はメイズを焼いたパンや芋類を主食にしていることも多いです。
- エチオピア正教の教えで、毎週水曜日と金曜日は「ファスティング」と呼ばれ、肉、卵、乳製品等を食べない半断食のようなものが行われています。また、イースター等の重要祭日に合わせ、50日間にわたる長期のファスティングも行われています。

【牛の生肉】

- エチオピアでは、牛の生肉を食す習慣があり、結婚式では、新郎新婦によるケーキカットに加え、生肉（牛肉）カットが行われることがあります。新郎新婦による「ナイフ入刀」が行われた肉は客に振舞われますが、リクエストに応じ好きな（肉の）部位をカットしてもらえます。
- ブロック肉に香辛料などを付け、生で食べます。



【羊の革製品】

- エチオピア羊の皮は、最高級品として知られており、先進国にも輸出されています。日本企業も andu amet が現地法人を構え、革製品を生産しつつ、現地の人材育成、雇用創出に貢献しています。

【エチオピア人の名前】

- エチオピアには苗字の概念がありません。最初の名前が本人に名付けられた名前であり、2番目は父親の名前、3番目は祖父の名前です。相手に呼びかけるときは、本人に付けられた最初の名前を使います。
- 敬称は、男性なら本人の名前の前に Ato (Mr.)、未婚女性なら Weyzerit (Miss.)、既婚女性なら Weyzero (Mrs.) をつけます。
- 結婚しても名前は変わりません。

【日本との類似点】

- エチオピアには、国の起源が皇帝による建国にあることや、茶道に通じるコーヒー・セレモニーがあるなど、日本との類似点があります。
- 挨拶の際にお辞儀をするところも、日本人と同じ習慣です。
- 加えて、エチオピアの伝統音楽の音階は5音階で、日本の伝統音楽の音階と同じであるため、音楽の雰囲気も類似しています。



【日本庭園】

- ハイレセラシエ皇帝が 1956 年の訪日後、皇帝の宮殿（現在の大統領府）内に建設しました。
- 1960 年当時、皇太子同妃両殿下であった上皇上皇后両陛下がエチオピアを御訪問された時に同庭園を御視察されました。
- 1974 年の帝政崩壊後、適切な手入れがなされず荒廃していましたが、2005 年、日本エチオピア外交関係回復 50 周年の年に、万博基金、三菱社会貢献基金等の支援を受け修復工事が行われました（2011 年～2013 年に池及び橋を修理）。
- エチオピアを訪問した小泉総理（2006 年当時）及び安倍総理（2014 年）も同庭園を視察しました。

